

2018年9月7日(金)

未来への扉



高等特別支援学校支援部 111号

挨拶上手

普通の学校生活で、「ああ、この子はいつもしっかり挨拶ができるな」と思う子や「この子の挨拶は気持ちがいいなあ」と思う子がいます。

会うたびに、感じがいいなという好感と、きっとこの生徒はどこにいても同じようにできるだろうという安心感を持ちます。

子ども達は日々何十人との人と顔を合わせます。

近所の人、隣の上野ヶ原特別支援学校の先生、学校に工事をしに来る職人さん、友達とまではいかない同級生、こうした人とじっくり話をする事はなかなかできません。

相手を知ること、自分を知ってもらうことも難しいでしょう。

でも挨拶なら誰にでもできます。

学年の半ばになると、毎年挨拶の様子にちょっと変化が出てくる生徒がいます。

蚊の鳴くような小さな声しか出せなかったのに、こちらをまっすぐ見て大きな声で挨拶できるようになった1年生。

この時期、先輩として自覚が出てきた2年生。就労を意識した様子で誰にでもしっかり挨拶できるようになった3年生。

今年も変化があった子には声を掛けています。変化を嬉しく思いながら廊下で会う事を楽しみにしていました。が、私が気付かないだけで他にもいるのかもしれない。

小さなコミュニケーションですが、ソーシャルスキルでは真っ先に扱われる大切な“挨拶”。みんなには挨拶上手になって行ってほしいものです。

今までの“未来への扉”で保護者の皆様にお伝えしたかったことは、

基礎学力をこれ以上つけることを重視する時期は終わり、社会に出る一步手前のこの時期、大切にしたい目標は

「生活や人間関係の中で、適切な言動をとる実践的な力」であるソーシャルスキル

と

「自立をかなえる力」であるライフスキル

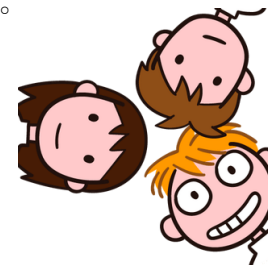
ということでした。

授業をしていると生徒の中には、

目の前のプリントを鬼気迫る勢いでやり上げて、もっと難しくてたくさんのプリントを欲しいと言う生徒や、電卓の授業なのに、3ケタ×2ケタのかけ算を自力で筆算でしたいからと電卓を拒む生徒もいました。

それが、いい、悪いということではなく、今までの道のりのなかで、学力が上手く積み上がらなかったと、もっと理解できるようになりたかったと、切実な悲しみを持っている生徒がたくさんいることを実感します。

でも今後は、学力で勝負するわけではないことを、まずは保護者の皆様に知っていただき、生徒達にもがんばりどころを教えて行ってあげてほしいと思います。



さて2学期が始まりました！

夏休みの課題は、教科は違えど、分からない部分は周りに少しヒントをもらいながら“自分でやり遂げる”集中力と持続力が必要なものだったと思います。

体育大会のポスターの絵は、冬休みには文化祭のポスターの絵となり、家庭科の調理のレポートは長期休みの度に出されます。同じ事を繰り返し繰り返しするうちに見通しが持て、今度はこうしてみよう！と工夫できるようになってきます。3年間分残して、成長の様子をまとめてもいいですね。



お薦めの絵本

「ぼくを探しに」

シル・シルヴァスタイン作・絵 倉橋由美子・訳 講談社



「何かが足りない それで僕は楽しくない」
から絵本が始まります。

その何かさえあれば、きっと自分は幸せになれる、そう信じて主人公は欠けたカケラを探しにいきます。

大人世代にはパックマンのような、子ども世代には暗殺教室の“殺せんせー”のようなまあい顔をした主人公は、いろいろなカケラと出会い、やっと自分にピッタリなカケラに出会いますが……。

この絵本自体は厚い本なのですが、10分ほど読めてしまいます。ストーリーも絵もシンプルで、それぞれの年代にそれぞれの解釈ができます。あなたにとっての“カケラ”は何ですか？

カケラ側から見たストーリー

「ビックオーとの出会い」も続編であります。

